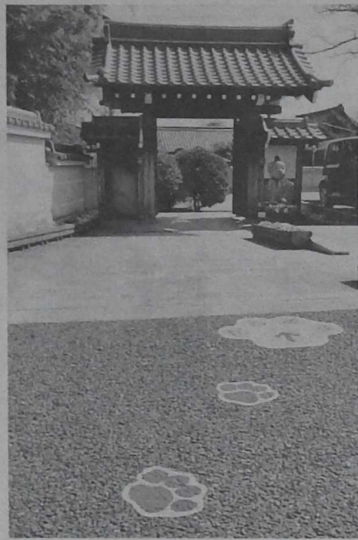


見聞録

達磨寺(王寺町)

聖徳太子の愛犬まつる



①「雪丸ロード」にあるフィギュアを紹介する岡島永昌さん
②達磨寺への道しるべとなる肉球の足跡(いずれも王寺町)



町の玄関口となる王寺駅から、達磨寺までは約1キロ。町教委委員の岡島永昌さん(43)と一緒に、「雪丸ロード」と名付けられた道を歩いた。葛下川沿いを通る心地よいコースで、地面に描かれた肉球の足跡が寺までの道しるべとなっている。途中に雪丸のフィギュアもあり、写真スポットとして人気だ。

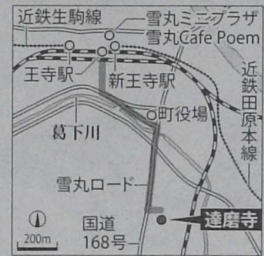
寺の記録にも雪丸の記述が残っている。太子の飼いだてであり、人の言葉を話し、経を読むことがあったのでは」と話す。

名犬伝説 町に活気を

で飢えた人を助け、亡くなった時に墓を作ったとされている。後に、その助けた人が中国で禅宗を開いた達磨大師の化身と考えられるようになり、鎌倉時代に創建した寺は達磨大師の墳墓とされる上にお堂が建てられている。

真っ白な毛と烏帽子が特徴的な王寺町のマスコットキャラクター「雪丸」は、聖徳太子の愛犬とされ、太子と関わりが深い町内の達磨寺には、雪丸にまつわる伝説が言い伝えられている。戌年の今年、その足跡をたどってみた。

【塩路佳子】



がで、自身を達磨大師の墓の北東に葬るよう遺言したとされる。北東は邪悪な鬼が入りす



③達磨寺の本堂に安置されている木造聖徳太子坐像(左)
④「雪丸Cafe Poem」で提供される生菓子「ゆきまへる」。2層のムースが包まれている⑤達磨寺にまつられる雪丸の石像。江戸時代にはあったとされる



◇達磨寺 王寺町王寺町2の1の40。本堂の拝観は午前10時～午後3時。土日はガイドの案内もある。拝観無料。寺や役場、観光協会では、岡島さんが書いた雪丸が主人公の童話「聖徳太子と愛犬雪丸のものごとり」(1000円)が購入できる。町観光協会(0745・33・6668)。



奈良

すつきり ワイドに 地域面

丸がえさやりの役人にえさを取られたことを太子に訴える記述もあるという。なんとも人間らしい。

町は2013年、寺の石像をモデルに雪丸を公式キャラクターにした。幼稚園や小中学校の運動会に参加し、町の観光・広報大使として全国のイベントでも活躍する。寺で会った王寺観光ボランティアガイドの会の石橋清さん(68)は「広島など遠方からも雪丸を目当てに寺を訪れる人がいる」と、その人気ぶりを話す。日野周圭住職は「雪丸が広く親しまれればありがたい」と温かく見守る。

王寺駅へと戻り、駅北側の商業施設にある「雪丸ミラザン」に足を運んでみた。太子や雪丸について年表などで紹介している。そばにある「雪丸Cafe Poem」では、雪丸をモチーフにした生菓子が味わえ、グッズも販売。太子の時代から約1400年の時を超えて愛される雪丸が、町を活気づけ、新たな歴史を創っているように感じた。